

解剖訓蒙 神經論 十六



Kodak Gray Scale

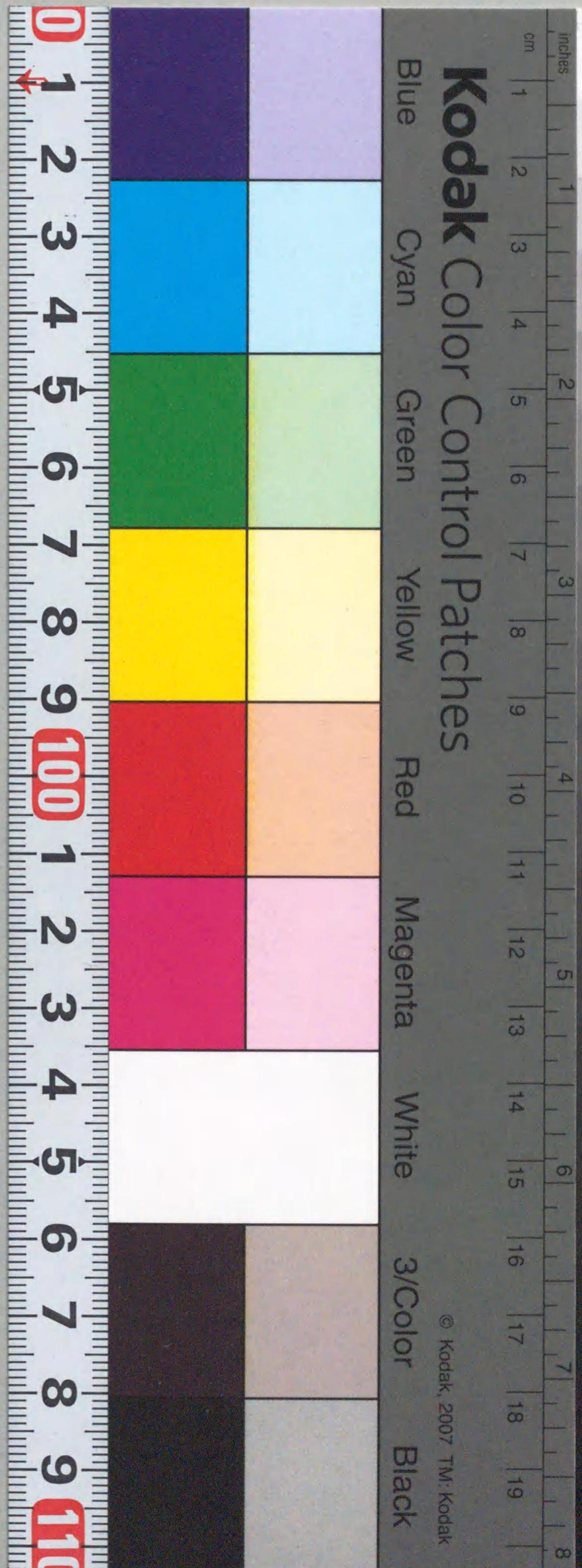
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black





解剖訓蒙卷之十六

神經論

脳脊髄中軸

脳脊髄中軸
 セレブレ
 ナル、エ
 キシス
 パイハ、
 頭顱骨ノ
 腔中ヲ
 充實スル
 脳
 ーブレト
 脳ノ下
 方ニ延
 展シテ、
 脊椎骨
 ノ管中ヲ
 填塞ス
 ル脊髄
 ル、コ
 ルドナ
 トヨリ
 成ル形
 等邊同
 狀ニシ
 テ、其
 兩半部
 ハ中線
 ニ沿フ
 テ、神
 經質ノ
 結合
 ヌムル
 シニテ
 互ニ連
 束シ、
 脳脊髄
 神

解剖訓蒙

卷之十六

一

Y994
J10255

I種
 W

 1200901349506

明治五年壬申年發閱

解剖訓蒙

啟蒙義舎藏版



經セレ子グロスパイノ起點ト為レリ、而テ頭顱骨
及ヒ脊椎骨ト、其他猶オ硬軟、蜘蛛糸ノ三膜ニ由
テ被包ス

腦

腦グレンハ、思慮感覺、智識精神ノ府ニシテ、其質ハ
神經質ノ大塊ヨリ成リ、膜ニテ被包シ、全ク頭顱
ノ腔中ヲ填實ス

腦ノ大小輕重ハ、人種、男女、年齡ノ少長、身軀ノ大
小、及ヒ健康羸弱等ノ差異有ルニ從ヒ、人々同一
ナラスト雖モ、白哲人種ハ、槩子皆最大ナリトス、

甲セレプロム

Y994

J10255

若シ人種、男女、及ヒ其他各般ノ景態、差異ナクシ
ハ、腦ノ度量ハ、獨リ其人ノ智愚賢不肖ニ從フ
白哲人種ノ成男ニ於テハ、腦ノ概量五十「オン」
トス、成女ニ於テハ、其五「オン」ヲ減ス、故ニ身軀
ノ全量ニ比較セハ、男女ノ差異甚々微ナリ、又タ
兒子ニ於テ、其躰重ニ比スレハ、其二十分一ニシ
テ、成人ニ於テハ、三十五分ノ一ナリ
兒子ノ腦ハ、柔軟ニシテ、パツク様ナレモ、年長ス
ルニ從ヒ、漸々強硬ト為リ、成人ニ至レハ、新製乾
酪ノ如シ、而シテ其異重ハ殆シト水ニ齊シ、其外部

ハ帶赤灰白色ヲ呈シ、形チ卵圓狀ヲ為シテ、后端ハ前端ニ比スレハ廣久上部ハ凸隆シ、下部所謂基礎ハ、不平ニシテ、大小不等ナル四個ノ分界ヲ呈ス、乃チ大脳、小脳、橋及ヒ延髓是レナリ

大脳

甲 セレブロム、マクニユム

大脳^甲 _{セラレブ}ハ、全脳ノ七分六部ヲ形成シ、全ク腦ノ上部ノ縱横経緯ニ瀾漫シ、形チ半卵圓狀ニシテ、狹端ハ前方ニ向ヒ、凸面ハ上方ニ向ヒ、最廣部ハ顱頂結節ニ對ス、
其上部ニ深キ裂間アリ、之ヲ大縦裂間^乙 _{グロシリ}ト

乙 ヌリオル、ロシキエジナール、サイノス

甲 ヘミスフェアリア、セラレブリ

乙 エンテリオルス

丙 ロビ、メジャー

丁 ツジユラシルグ

ユジナル、ト稱ス、其全徑ニ達シ、前後兩端ハ、全深部ニ届ル、大脳鎌狀中隔茲ニ占居シテ、其上縁ニ沿ヒ上縦竇ヲ有ス
大脳ノ半部ヲ、大脳半規形^甲 _{ヘルミス}ト稱ス、其相接スル面ハ、大縦裂間ニ對シテ、平板ヲ為シ、外面ハ凸隆シ、下部ハ三對ノ大脳葉^乙 _{セラレブ}ラシク形

成ス、之ヲ前葉中葉后葉ト稱ス
前葉^乙 _{アロンテリス}ハ、頭腔ノ前窩ヲ領シ、眼窩位ノ上方ニ占居ス、中葉^丙 _{ミッド}ハ大脳ノ最廣部ニシテ、頭腔ノ中窩ヲ領シ、^丁 _{シルグ}裂間

甲ロロ、ホステリオルス

ルニテ、前葉ト分界ス、此裂間ハ、外方ニ彎曲シテ、
 蝴蝶骨ノ小翼ヲ含有スル者ナリ、甲后葉ホステリ
 スハ、中葉ト分界ス可キ線ヲ有セス、天幕上ニ占
 據スル大脳ノ一部ニシテ、小脳ヲ覆歴シ、其下面
 ハ稍ヤ凹陷シテ、小脳ノ凸隆セシ上面ニ啣接ス
 大脳半規形ハ、其面全ク迂曲廻轉シタル隆起所
 謂迂廻コシコシウリユヲ為セリ此迂廻ハ、皆ナ腦軟
 膜ノ延長部ヲ含有スル、深キ裂間丙裂間イニテ、
 互ニ分界シ、其大小大抵同一ナリ、裂間ノ縁ニテ
 圓形ト為リ、稍、扁平ナル頭頂ヲ有ス、然レモ其經

乙
 セレブレ、シルコン
 ヲリユートン
 丙
 サルシ

甲
 キエラ、ソステス
 乙
 プロス、グステス

過ノ方向ニ至テハ、數種ノ腦ニ於テモ、一個ノ腦
 ニ於テモ、亦曾テ同一ナルナリ此迂曲中ニ、殊異
 ナル者三個有リ、第一個ハ、兩側ニ於テ、胼胝体ヲ
 超テ彎曲シ、第二個ハ、稍、隱伏シテ、大縦裂間ノ縁
 ヲ為ス、第三個ハ、乙裂間ノ縁ヲ為シテ、此裂
 間内ニ蔵スル、數個ノ小ナル迂曲ヲ含有ス
 大脳ノ外部ハ、灰白質ヨリ或ル之ヲ皮甲樣質コル
 テルソブスト稱ス、内部ハ白質ヨリ成ル、之ヲ髓乙樣
 質メソブステラレト稱ス、各其部位ニ從フ故ニ大
 腦半規形ヲ横斷セハ、白質ノ卵圓形中心部ヲ呈

其面ニ血管ヲ截断スルヨリ生スル赤點ヲ散布シ其周圍ニ迂曲ニ配匹スル許多ノ突起有リテ皆ナ皮様質ニテ被包ス此質ハ滿地皆ナ同厚ノ層ヲ為シテ大脳半規形ノ迂曲及ヒ裂間ノ條路ニ沿ヘリ又タ胼胝躰ノ水平ニ方テ半規形ヲ横断セハ白質ノ橋有リテ兩個ノ白質卵圓形中心部ヲ結合ス

腦ノ底面ヲ翻轉セハ大脳ノ後葉ハ全ク小腦ニテ蔽藏シ小腦ノ前方ニ延髓及ヒ橋有リ橋ノ前方即チ大脳ノ中線ニ沿テ逐次ニ大脳脚、乳頭隆

起、漏斗、粘液躰、視神經、視神經結合及ヒ嗅神經有リ以下之ヲ辨説ス

甲クリユラセレブリ

大脳脚甲 クリユラセレブリ ロムハ兩個ノ大ナル圓柱形ニ

シテ橋ノ前部ヨリ大脳中葉ノ内側ニ分岐シ其面縦線ヲ呈シ外部ハ白質ヨリ成リ内部ハ聚合シタル灰白質ヲ含有ス此脚ヲ横断セハ其内部ノ灰白質ハ半月狀ノ層ヲ為セリ又其兩個ノ前部ニ間隙有リテ乳頭隆起及ヒ漏斗ヲ含有ス間隙ノ後角ハ深キ欲窪ヲ形成セリ此欲窪ハ灰白質トノ混合物ニテ第三室ヨリ分界シ許多ノ細

甲

解部論

卷之十六

四

甲
グレンチホル
ータホストレマ

血管ニテ穿孔セラル、故ニ後穿孔質ポスベリホレ
ペーテト、スト稱ス

乙
エチントマミリス

乳頭隆起マムミラシスハ兩個ノ小ナル白色球
形ニシテ、互ニ抵觸シ、後穿孔質ノ直前ニ在リテ
上部ハ天井ノ前脚ニ結合シ内部ニ灰白質ヲ含
有ス

丙
フランソル

漏斗ビユンロムジハ即チ漏斗狀ニシテ、乳頭隆起
ノ前方ト、視神經ノ後方トノ中間ニ位シ、其質ハ
灰白質ヨリ成リ、中虚ニシテ第三室ノ底ヲ形成
シ、其廣基ハ漸次ニ狹隘ト為リテ、管狀延長ヲ成

甲
クラシラ、ビトイタリ

シ、斜ニ下前方ニ向ヒ密閉シ了ル
粘液躰ビトイタレハ、蝴蝶骨ノ粘液窩ヲ領シテ、
漏斗ノ末端ニ結合ス、其質ハ結締織ヨリ成リテ、

乙
クラシラ、ビトイタリ

過鏡ノ血管ヲ具有シ、粒狀物、核及ヒ含核セルヲ
混合シ、帶赤灰白色ヲ呈シテ、稍強硬ナリ、而テ横
腎狀前葉ト、小球狀後葉トニ分界ス、

乙
シヤイス、マフチキタ

視神經ノ詳説ハ、其條下ニ譲ル、
視神經結合マフチキ、コムハ、大脳脚ノ外側ヨリ
會合スル、兩視神經根ノ結合ニテ形成シ、漏斗ノ
前方ニ位ス、其説ハ視神經ノ條ニ具ス

シテテチテス、ペルホ
シテテチテリオル

乙コニツシユエ、マクナ

嗅神經ハ亦其條ニ詳ラカナリ
 視神經結合ト嗅神經根トノ中間ニ於テ、兩側各
 前穿孔質^アトテド、スベルホ有リ、乃チ大腦ノ
 内部ニ竄入スル、過鏡ナル血管ノ穿ツ所ナリ
 大腦半規形ヲ、各側ニ壓セハ、大縦裂間ノ底ニ、凸
 隆スル白躰、所謂胼胝躰有リテ、此裂間ニ沿ヒ、前
 方ニ達スルヲ數^インチ以テ、兩半規形ヲ結合シ
 胼胝躰^ルル^ルボス、カハ、兩大腦半規形ノ、白質中心
 部ヲ結合セシムル、同質ノ橋ナリ、其長殆ト三イ
 ンチ幅一^インチ四分ノ三ニシテ、前後比例スレ

ハ、多ク前方ニ僻據シ、前部ハ稍、狹隘ナリ、其上面

ハ、多ク前方ニ僻據シ、前部ハ稍、狹隘ナリ、其上面
 六、縦ニ彎曲シテ、乃緯線ヲ呈シ、且ツ中線ノ兩側
 ニ於テ、一個ノ微細ナル縦線ヲ呈ス、其前後兩縁
 公厚ク且ツ圓クシテ、裂間ニ由テ其近傍大腦半
 規形ノ灰白質ト分界ス
 大縦裂間ニ沿ヒ、腦ヲ縦斷スレハ、胼胝躰ハ、白質
 ノ厚層ニシテ、兩半規形ノ第一迂廻ノ底下ヲ過
 行ハ、此躰ノ前部ハ、自ラ重疊シテ、厚層ヲ為シ、而
 テ下方ニ彎曲シ、視神經ニ達シ、第三室ノ前部ヲ
 閉鎖スル薄板ト為シ、其后端ハ、大腦ノ底面、四疊

躰ノ部位上、即チ小腦ノ最モ隆起スル所ニ達ス

下天井ノ彎曲ニ由リ、其後部ニ連合シテ、其底下

天井キル子ノ彎曲ニ由リ、其後部ニ連合シテ、其底下

又前方ニ彎曲ニ由リ、其前部ニ達スル白質ノ薄層ナ

ル上面或ハ下面ヨリ之ヲ視レハ、其形チ三角ナ

ル上面ハ中線ニ沿テ、胼胝躰及ヒ透明中隔ニ連

合シ、中線ノ側方ハ、側室下床ノ一部ヲ形成ス、其

下面ハ穹隆シテ、縦横兩線ヲ呈シ、乃チ第三室ノ

天井ヲ形成ス、又ハ側室ノ最モ隆起スル所ニ達ス

天井ノ先端ハ、二部ニ分界ス、之ヲ合セテ、其前脚

ト稱ス、其前脚

甲ホル子キスセレアリ

乙ケリユラアテリオ
ヲケルニシス

甲ケリユラ、ホステリオ
ルケラニシス

乙セフトムベリユニシユ

丙ケントリキユロス、
ケイントス

アケリテリオト稱シ、稍ヤ分岐下行シテ、乳頭隆起
ルケリユラニ達ス、基礎ノ兩角ヲ其甲后脚乙ト稱ス、
延長シテ側室ノ中角ニ達シ、剪糸躰ニ連合ス

透明中隔
透明中隔

乃チ腦ノ中線ニ在リ、神經質ノ薄板ニシテ、乃チ

兩側室ヲ分界シ、狹隘ナル裂間、所謂第五室丙ト稱ス、

リケルトヲ含有ス、此室ハ、四壁皆チ閉鎖シ、緻密ナ

ル清膜ニテ、其裡面ヲ被包ス

此中隔ハ、其外面灰白質ヨリ成リ、内面、即チ第五

室ニ對スル所ハ白質ヨリ成レリ

側室

側室ラテララルハ、胼胝躰ノ底下兩側ニ於テ、各

一個ヲ構成シ延長シテ大脳半規形ノ三葉ニ達

ス、其延長部ヲ前中后三個ノ角アンゴト稱ス

此室ハ、各胼胝躰ヲ其上屋ト做シ天井ヲ下床ト

做シ、透明中隔ヲ内壁トシ線條躰ヲ外壁トス

前角アンテリヤハ、自餘ノ兩角ニ比スレハ、著明

ナラス、線條躰前端ノ周圍ニ於テ、室腔ノ延長セ

ル者ニ過キス

甲 アンテリヤ、アンテリヤ、アンテリヤ

乙 アンテリヤ

丙 アンテリヤ、アンテリヤ

甲 アンテリヤ、アンテリヤ

乙 アンテリヤ、アンテリヤ

丙 アンテリヤ、アンテリヤ

丁 アンテリヤ、アンテリヤ

戊 アンテリヤ、アンテリヤ

中角ミッドルハ、下方ニ彎曲シテ、大脳ノ中葉ニ

到ル、其底ノ内部ニ隆起スル厚キ線有リテ、下端

ハ齒狀ヲ為セリ、之ヲ海馬足ヒッポカト稱ス、此線

ノ上縁ニ白色ノ帶有リ、之ヲ剪線シヤニト稱ス、此線

ト稱ス、天井ノ后脚ニ連合ス

海馬足ノ外部ハ、白質ヨリ成リ、内部ハ、灰白質ヨ

リ成レリ、而テ灰白質ハ其内側ニ於テ齒狀帶デン

ト稱ス、之ヲ為シ表面ニ露出ス

右角ホスハ、内方ニ彎曲シテ大脳ノ后葉

ニ達シ、其内側ニ白色ノ距狀起線有リテ突出ス

甲ヒポカホスマイル

之ヲ距^甲ツル^乙或^丙小海馬足ト稱ス^丁突出^戊
兩側室ハ天井底下^己孔^庚等^辛交^壬通^癸且^甲
第三室ニ通入^乙四壁ハ皆^丙閉鎖^丁細精ナル膜ニ
テ其裏面ヲ被包ス^戊其内^己線^庚條^辛躰^壬
線條躰^トト^ハト^ニト^テト^ハ側室ノ外壁ヨリ其腔中ニ
突出スル半梨子狀ノ隆起ニ^テ之ヲ截斷セ^ハ
線條ノ景況ヲ呈ス故ニ其稱ト^ハ其廣部ハ前方
ニ在リ狹部ハ后方ニ彎曲シテ視神經床ノ外側
ニ達ス其質ハ外面ヨリ灰白質ヲ以テ成リ其内

乙ヒポカホスマイル

甲
ノクレウスンチ
三ス

面ニ一層ノ白質有リ又々其内面ニ灰白質ノ^甲
ン^乙様^丙挾^丁ル^戊子^己ウ^庚キ^辛ユ^壬ラ^癸有^甲リ此^乙枝^丙ノ前^丁下^戊方^己ト其^庚
外側ニ又々各灰白質ノ小簇有リ此枝ハ大脳脚
ノ分歧纖維ニテ透過セラル^トヲ以テ之ヲ截斷
ス^ハ亦^ハ夕^ニ線^ノ條^ノ景^況ヲ呈^ス
側室ノ床ニ於テ腦軟膜ノ著明ナル脈絡副有リ
之ヲ脈絡叢^トレ^キロ^イド^スト^稱ス天井ノ前脚ノ底
下ニ在ル孔ヨリ天井ノ側室ノ中角底ニ下行ス
蓋シ此叢ハ天井ノ底下ニ於テ腦軟膜ノ中蓋ニ
連合シ側室ノ裏被膜ノ外方ニ在リテ其腔中ニ

伏セス側室、其對稱、伏方ニ在リ、其腔中ニ

第三室

天井ノ底ニ於テ、狹隘ナル

第三室

トリスド、ビシハ、天井ノ底ニ於テ、狹隘ナル

三角形ノ腔ヲ成シ、其尖頭ハ前方ニ在リ、基礎ハ

胼胝體ノ後緣ト、四疊體トノ中間ノ裂間ニ當レ

リ而テ其前部ハ、胼胝體ノ前脚ニテ閉鎖シ、其床

ハ、前方ヨリ後方ニ逐次ニ視神經連合、漏斗、乳頭

隆起、後穿孔質、及ヒ大脳脚ニテ形成ス、此室ハ大

脳脚ノ後方即チ四疊體ノ底下ニ於テ、狹路ヲ以

テ第四室ト交通シ、此路ノ兩側ハ、灰白質ヲ以テ

甲、空トシテ、空トシテ

甲、空トシテ、空トシテ

乙、空トシテ、空トシテ

蓋閉ス、其土面、其腔中ニ於テ、中

胼胝體ノ後緣ト、小脳トノ中間ノ裂間ニ於テ、中

蓋ストシテ、稱スル者有リ、腦軟膜ノ一部

ニシテ、第三室ノ穹隆シタル天井ノ下面ニ沿テ

延長ス、其腔中ニ於テ、視神經連合、漏斗、乳頭

隆起、後穿孔質、及ヒ大脳脚ニテ形成ス、此室ハ大

脳脚ノ後方即チ四疊體ノ底下ニ於テ、狹路ヲ以

テ第四室ト交通シ、此路ノ兩側ハ、灰白質ヲ以テ

蓋閉ス、其土面、其腔中ニ於テ、中胼胝體ノ後緣ト、小脳トノ中間ノ裂間ニ於テ、中

蓋ストシテ、稱スル者有リ、腦軟膜ノ一部ニシテ、第三室ノ穹隆シタル天井ノ下面ニ沿テ

甲 テニセミルキユリス

乙 テニセミルキユリス
千ニルキヨムノリユス
アテリユスントトスホ
ステリユス

丙 コルボラセニキユレ
タ

丁 コルボラセトリゼミナ

角音訓蒙 卷之卅六 十一
視神經床の前方及外側、細小ナル白質ノ半

輪狀帶 トニキユレ 天線條躰ト分界ス其前後

兩部ニ隆起有之ヲ視神經ノ結節 トニキユレ

稱ハ後結節ノ底下ニ、兩個ノ白色凸起アリ、之ヲ

膝狀躰 トニキユレ ト云フ、半ハ視神經根ノ起

點ト為レリ

四疊躰

四疊躰 トニキユレ 第三室ノ後部ニ在ル白色

ノ方塊ナリ、其上面十字形ノ溝ヲ成シ四個ノ隆

起ニ劃界ス、故ニ四疊躰ト稱ス、視神經床ヨリ小

腦ニ斜達シ、上脚ニテ、小腦ニ連合シ其側方ハ視

神經床及ヒ膝狀躰ニ固着シ、且ツ一帯ノ白質ニ

テ、大脳脚ト小脳トノ中間、即チ橋ノ後部ニ聯接

ス、蓋シ此躰ト線狀躰ノ後縁トノ中間ニ裂開アリ

即チ腦軟膜ノ中蓋、第三室ノ天井ニ浴テ進行

スル條徑ナリ、又此躰ノ底下ニ、第三室ヨリ第四

室ニ通スル路アリ

松葉腺

松葉腺 トニキユレ 微小ナル圓錐形ノ灰白質ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

松葉腺 トニキユレ 微小ナル圓錐形ノ灰白質ニ

ニ

甲^シシ^ンキ^テ、^ニリ

シテ、亦タ一對ノ白質根ヲ生ス之ヲ其脚^甲ニペクユ
スト稱ス、恰モ肉又ノ如ク分歧シテ、視神經床ノ
内側ニ到ル蓋シ此腺ハ、一種特異ナル者ニシテ、
砂石様ノ顆粒ニシテ骨ノ土質ニ彷彿タル成分
ヲ有スル者ヲ含メリ

第三室ノ結合

第三室内ニ、前中後三個ノ結合有リ前^甲結合^テアリ
シ^オル、^ユム^ニハ、横緯ノ白色圓柱形ニシテ、此室ノ
前部即チ天井ノ前脚ト、胼胝体トノ中間ニ位シ
其質ハ、線條体ノ下部ヲ竄通シテ、大脳半規形ニ

甲^シシ^ンキ^テ、^ニリ

甲^シシ^ンキ^テ、^ニリ

達スル神經纖維ヨリ成レ^甲中結合^ニシ^ドル、^コル
ハ灰白質ノ圓形峽ニシテ此室ノ中央ヲ横行シ
兩視神經床ヲ給合セシム後^乙結合^コボス^テリ^オル
ハ、白質ノ薄板ニシテ視神經床後部ノ中間ニ
達シ、四疊体ト松葉腺トヲ結合セシム

小脳

小^丙腦^ロム^レベ^ハ、大抵腦部ノ八分一ヲ形成シ、頭腔
ノ後窩ヲ領シ、天幕ノ底下ニ在リテ、大脳ノ后葉
ト分界ス其兩側部ハ、大脳ノ如ク半規形^乙ニシ^ルス
スヨリ成リ、後下方ニ於テハ、廣深ノ溪^丙ニシ^ルヲ以

丙^セレ^フロ^ム、^ハル^ガム

丁^ハス^ニリ^テ、^セリ

戊^ウエ^ルリス

甲
インテリオルウレミ
ヲハプロセツ

乙
ミダリニシユ

テ互ニ分界ス兩半規形ヲ結合スル緊要ナル部
 ハ、其中間ニ在リテ上面ヨリ之ヲ視レハ、著明ナ
 ラス下部即チ溪底ヨリ視レハ肥厚ナル蟲狀隆
 起線ヲ成セリ故ニ蟲狀隆起プロセルミヲト稱
 ス
 小腦ハ其上面凸隆シ殊ニ其前部最モ隆起シテ
 兩半規形結合ノ中線ヨリ其側縁ニ傾斜ス下外
 兩面モ亦タ凸隆セリ
 其外部ハ大腦ノ如ク灰白色ヲ呈シ、許多ノ裂間
 ニ由テ殆ト平行ノ板板ヲニ分レ都テ横行ノ方

丙
ミダリニシユ

向ヲ為セリ其内部ヲ檢スルニ白質ノ三稜柱幹
 ヲリ成リ柱側ヨリ凡ソ十二個ノ廣キ薄板ヲ分
 出ス此板再々第二列ノ薄板ニ分レ是レ亦タ屢
 再分セリ此白質ノ分板ノ周圍ニ灰白皮様質グレイマター
 ノカスグレシ疊襲ス其疊間ハ乃チ小腦外部ノ
 裂間ニ當レリ故ニ之ヲ縦斷スルハ樹枝形ヲ呈
 シ横斷スレハ唯タ白色髓様質ホワイトマター
 ノ廣面ヲ顯スノ三稜柱ノ周圍灰白質ニ分
 界セリ
 蟲狀隆起ノ構造ハ半規形ト同一ニシテ唯タ大

甲 トンシルラ

乙 ロビユリ、子ル等ニモガストリシ

丙 コルボステニキ云

小ノ差異アリル也、三半規管、前庭、内耳、外耳、

溪ノ前端ニ於テ、兩半規形、一對ノ圓隆起ヲ造リ

中間ニ蟲狀隆起ノ最隆部ヲ挾ム此部位ノ關係

共ニ相類似スルヨリ之ヲ扁桃腺扁桃腺及ヒ懸

壅垂ユウグト稱セリ扁桃腺ノ前ハ上方ニ於テ肺

胃葉クニユモガストリアリ是ハ肺胃神經ノ近隣ニ

寓スルヲ以テ名クル者ニシテ、兩部ノ間、小腦脚

ヨリ外方ニ進行セリ、裂間ニテ分テリ、亦々

鋸齒躰

鋸齒躰デシハ、小腦半規形ノ白質幹中ニ

於テ、周縁褶襞スル、灰白質ノ囊狀層ナリ、截斷セ
ハ、此層ニテ褶襞スル、白質ノ鋸齒狀核ナルヲ以
テ、其名稱トス此灰白質ノ層ハ其上部及ヒ内部
ハ披離シテ、白質ノ神經纖維ヲ、其内面ニ竄入セ
シム

小腦脚

小腦脚クリユハ、又小腦ノ中脚トモ稱ス、

一對ノ圓柱狀白質ニシテ、腦ノ底面ニ在リ、橋ヨ

リ側方ニ延長シ、且ツ、右方ニ分歧シテ、小腦ノ半

規形ニ竄入スル者ナリ、而シテ、縱線ヲ呈シ、橋ヨリ

甲 クエセレリ

甲ア三ノオ、ベ、ト、シ、ク、ル、ス

乙シ、ク、ル、ス、ハ、セ、レ、ベ、リ

丙ク、リ、オ、ル、ハ、ペ、

小腦半規形ニ進行スル神經纖維ノ大束ヨリ成
レリ、小腦ニ於テ、此他尚ホ上下ノ兩脚有リ上脚
ペ、ド、ン、ク、ル、ス、ハ、兩、個、ノ、扁、平、ナ、ル、圓、柱、狀、ノ、白、帶、ニ
シテ、小腦半規形ノ内部ノ白質ヨリ、四疊躰ニ斜
メニ上行シ、且ツ分岐シ此脚ト小腦ノ蟲狀隆起
トノ、三角間隙ハ、白質ノ薄板ニテ密閉ス、之ヲ腦
辦シ、ク、ル、ス、ハ、ト稱シ此辦ハ、周縁皆ナ固着シテ、
第四室ヲ被覆シ、其上面ニ於テ、横畦ヲ有スル、灰
白質ノ舌狀突起アリテ、小腦ヨリ延長シ下脚ニ
左リク、ル、ス、ハ、細小ナル白帶ニシテ、半規形ノ内

部奥側下行シ延髓ノ索狀躰ニ連合シ三脚中ニ
於テ、下脚ヲ最小ナリトス、又ハ、白帶ニシテ、

橋

橋ス、ク、ル、ス、ハ、灰形ノ白躰ニシテ、大脳底面ノ稍々后

部小腦ノ前部、即チ枕骨ノ基礎突起ノ上部、及ヒ

蝴蝶骨ノ斜坡ニ依リ、其上面ハ、凸隆シテ、横線ヲ

呈シ、其上、后、兩、縁、ハ、圓、ナ、リ、下、面、ノ、中、線、ニ、沿、ヒ、淺

溝有リテ、基礎動脈ヲ含有シ、且ツ細孔有リテ、此

動脈ハ、細小貫枝ヲ竄入セシム、前部ニシテ、

延髓ニシテ、

甲ポ、ン、ス、ウ、エ、ロ、リ

甲シ、ク、ル、ス、ハ、セ、レ、ベ、リ

甲ボルボス、ラキジキユス

延髓 ロンドラゲ タラプハ、腦ノ四部中最小ナル者ニシテ、即

尖形ノ白色ノ梨子狀ナリ、小腦ノ前方ニ在テ、即

キ枕骨ノ基礎突起ノ溝中ニ占據ス、其長サ一ノ

ニテ強ニシテ、脊髓ニ到リ接連シ、而テ其同裂間

ニ連合スル、前中后中兩裂間 リアンテリオル、エン

ツルニテ兩側部ニ分界ス、而シテ兩側部、又々尖

形、橄欖索狀、后尖形ノ四躰ニ界ス、以下之ヲ論列

ス

乙コルボス、ヒラミタリフ

尖形躰 ボデラニス ダルハ、即チ尖形ノ白躰ニシテ、前

中裂間ノ各側ニ位シ、下端ハ、脊髓ノ前側兩柱ニ

甲ゴスセーチス、セラミ
ドム

連接シ、上端ハ、厚圓ニシテ橋ニ結合ス

此躰ノ白質ノ一部、前中裂間ノ下端ニ於テ、一側

ヨリ他側ニ横行スル有リ之ヲ 甲交叉 シデコニス ヲズ

セ、ピ ドラト稱ス

此躰ノ構造ハ、三稜柱狀ノ束ヲ為セル、神經纖維

ヨリ成ル、蓋シ此纖維ハ、脊髓ノ前側兩柱ヨリ橋

ニ上行スル者ナリ、即チ内部ノ纖維ハ、脊髓ノ側

柱ヨリ上行シ、且ツ他側ニ横行シテ、所謂交叉ヲ

形成シ、側部ノ纖維ハ、同側ノ脊髓前柱ヨリ上行

ス

甲コルホスヲリビシリア

橄欖躰

前者ノ外側ニ位ス其質ハ白質ヨリ成リテ、周縁

褶襞スル、灰白質ノ囊狀層ヲ含有ス故ニ之ヲ截

斷セハ、其層ハ、此躰ノ中心部ヲシテ、鋸齒狀ノ卵

圓形核ヲ呈セシム、其說已ニ鋸齒躰条下ニ見ハ

此躰ノ白質ハ神經纖維ノ束ヨリ成リテ、下方ハ

脊髓前柱ノ白質ニ連合シ、上方ハ、大脳脚及ヒ四

疊躰ニ到レリ

索狀躰

レスチヲリハ、前者ノ外后方ニ位シ、脊髓

ヨリ分歧上行シテ、小脳ノ下脚ニ連合ス、其質ハ

白質ヨリ成リ、灰白質ヲ含有ス、而テ白質ハ脊髓

ノ白質ニ連合シ、灰白質ハ脊髓ノ后角ニ連合ス

后尖形躰
裂間ノ各側ニ倍シ、第四室ノ側方ニ分歧シ、其質
ハ、兩個ノ細小ナル白質ノ束ヨリ成リテ、下方ハ、
脊髓ノ后中柱ニ連合シ、上方ハ小脳ノ下脚中ニ
消滅ス
延髓ノ兩側ニ弓狀纖維有リテ、橄欖躰ノ下部ヲ
横行シ、尖形索狀ノ兩躰ヲ結合ス之ヲ弓狀纖維

乙コルホスレチクヲリ

索狀躰

レスチヲリハ、前者ノ外后方ニ位シ、脊髓

ヨリ分歧上行シテ、小脳ノ下脚ニ連合ス、其質ハ

白質ヨリ成リ、灰白質ヲ含有ス、而テ白質ハ脊髓

ノ白質ニ連合シ、灰白質ハ脊髓ノ后角ニ連合ス

后尖形躰
裂間ノ各側ニ倍シ、第四室ノ側方ニ分歧シ、其質

ハ、兩個ノ細小ナル白質ノ束ヨリ成リテ、下方ハ、

脊髓ノ后中柱ニ連合シ、上方ハ小脳ノ下脚中ニ

消滅ス
延髓ノ兩側ニ弓狀纖維有リテ、橄欖躰ノ下部ヲ

横行シ、尖形索狀ノ兩躰ヲ結合ス之ヲ弓狀纖維

甲不キテラシルス

甲

イ

乙

ス、イ、エ、タ、ラン、ス、エ、
先、ア、ー、シ、ヲ、ー、ム、ス

角音訓

前方より後方へ横行スル他、纖維アリ、中裂間中ニ於

纖維 イセブルス

第四室

甲
空
ト
ス

第四室

前方ト中間ニ於テ三角部ヲ成セリ、其腔ハ

上方ハ四疊躰ノ底下ヲ上行スル狹路ニテ、第三

室ニ交通シ、下方ハ、脊髄ノ蜘蛛糸膜下腔ニ開口

ス裏面ハ第三室ノ清膜ニ連合スル同膜ニテ被

包ス

包ス

此室ノ后斜壁ハ、即チ其天井 フルニシテ、小腦ノ

上脚ト、腦辦ニテ形成シ、壁ノ兩側ノ后方ハ、小腦

ノ下脚ニテ形成ス

其前壁ハ、即チ其床 ルニシテ、周縁ハ斜

延髓ノ后部、及ヒ橋ニテ形成ス、此床ノ周縁ハ斜

方形ニシテ、其兩側、上方ハ、小腦ノ上脚ニテ界シ、

下方ハ、下脚、索狀躰、及ヒ后尖形躰ニテ界ス、而テ

上下共ニ后中裂間 アニ傾斜ス

此裂間ノ下方ハ、脊髄ノ裂間ニ連合シ、上方ハ消

没ス

乙
イ
ノ
ス
ロ
余
イ
タ
リ
ス

乙
イ
ノ
ス
ロ
余
イ
タ
リ
ス

此床ニ數個ノ小凸隆アリテ其面平坦ナラス脊
髓ノ灰白質ニ連合スル同質ニテ被覆シ且ツ各
側ニ白キ緯線有リテ聽神經ノ根蒂ニ結合ス
床ノ下角ニ小窪アリ胎兒生活中ニ於テ脊髓ノ
中心ヲ浴テ存在スル一管ノ上端ナリ
此室ノ下部ハ蜘蛛糸膜ニテ閉鎖スレト既ニ論
スル如ク脊髓ノ蜘蛛糸膜下腔ニ連合ス

脊髓

脊髓 甲 スパイドナ ル コルドナ ハ 發動機ノ中心ニシテ膜ニテ被

包シ脊椎骨ノ管中ヲ充實シ上端ハ延髓ニ連合

甲
三
ド
ス
パ
イ
ナ
リ
ス

シテ枕骨孔ヨリ起リ下端ハ腰椎第一片ノ下部
ニ了ル

胎兒成形ノ際ハ脊髓ノ長ク脊椎柱ノ長サニ配
スレト胚胎第三ヶ月ニ至レハ脊椎柱ハ特ニ増
長スルニ由テ脊髓ハ稍長スレト退縮スルカ如
ク其初生ニ至レハ脊髓ノ長ク唯々腰椎ノ第三
片ニ達スルノミ
脊髓ハ其長サ十五乃至十八イシテ重サ平量ノ
一オンス半其常形ハ圓柱狀ニシテ前面ヨリ後
面ニ壓搾ス其横徑ハ諸部ニ從テ同徑ナラス乃

甲
アツシユラテラリスア
ニリオハボスニリオン

脊髓ノ各側ヨリ、其神經ノ生スルヤ、前後ノ两根
ニ基ツク久而テ其生スル所、皆ナ僅カニ凹陥シ、前
側後側兩裂間アツシユラテラリスアラハ、テリオル、エツド、ボス
テリスヲ生ス殊ニ後側裂間ハ、脊髓灰白質ノ其底ニ達ス
ルヲ以テ前側裂間ニ比スレハ、多ク著明ニシテ、
脊髓後柱ノ白質ヲ、全ク前側部ヨリ障隔スルニ
至ル

脊髓ノ兩側部ハ、其裂間ニテ、各三柱ニ分界ス即
チ前中裂間ト前側裂間ノ中間ニ含有スル者ヲ
前柱アツシユラテラリスアコロムンスト做シ、前側後側兩裂間ノ中

乙
アツシユラテラリスア

甲
アツシユラテラリスア

間、即チ脊髓神經兩根ノ中間ニ含有スル者ヲ側
柱アツシユラテラリスアコト做シ、後中裂間ト、後側裂間ノ中
間ニ含有スル者ヲ後柱アツシユラテラリスアコト做シ、而
テ前側裂間ハ、尋常著顯ナラサルニ由リ、前側兩
柱ヲ合シテ一ト做シ、前側柱アツシユラテラリスアコト
名ヲ下スコト有リ

乙
アツシユラテラリスア

脊髓ノ上部ニ、細小ナル一對ノ白柱有リ、後中裂
間ニテ互ニ分界シ、延髓ノ後尖形躰ニ連合ス、之
ヲ後中柱アツシユラテラリスアコト稱ス

丙
アツシユラテラリスア

脊髓ヲ横斷セハ、其灰白質ハ兩個ノ新月様州ト

一個ノ横州トヲ為セリ而テ新月様州ハ各側ニ
 對在シテ凸面ハ横州ニテ互ニ結合シ、兩端ハ前
 後ニ向フ之ヲ前後ノ**解** ホスルト稱ス横州ヲ後
 結合或ハ**灰白結合** レホスコテリオ ル ヲ稱ス
 前角 ホスル テリオ ル ハ短矮ニシテ肥且ツ鈍脊髓
 ノ前側中ニ在リ後角 ホスル テリオ ル ハ脩長ニシ
 テ瘠且ツ銳ナリ、其尖端ハ灰白質ノ多ク透明ナ
 ル部、即チ**膠狀質** ソゼブレステノイ ドニテ帽被シ、前側
 柱ト後柱トヲ分界シ、後側裂間ノ底ニ達ス
 灰白質ノ新月様州ハ脊髓ノ下端ニ近邇スルニ

甲 コルニユア

乙 コルニユア、シテリ

丙 コルニユア、アンテリヲラ

丁 コルニユア、ポステリヲラ

戊 ソステニキア、キリ、
セレチノサ

甲 ピア、メニキス

隨ヒ其形チ著明ナラズ、白質ノ量モ亦々減少ス
 腦脊髓膜 ハ 腦及ヒ脊髓ノ膜ハ四層有リ、曰軟膜、曰固有膜、曰
 硬膜、曰蜘蛛糸膜是ナリ、其面ニ有リ
 軟膜 ハ 軟膜 ハ 由テ軟硬トシ、其面ニ有リ
 軟膜 ハ ピア ト ハ ハ 細精ナル纖維脈絡膜ニシテ、腦及
 ヒ脊髓ニ周布密被シ、其構造ヲ維持保護シ、且ツ
 過饒ナル毛細血管ノ始末ノ點ト為レリ而テ其
 部位ニ隨テ腦軟膜ト脊髓軟膜ニ區別ス
 腦軟膜

腦軟膜 ビビ、マレト、ル、ヲノ造構ハ、脈絡網ニ基ヒ
 ス蓋シ内頸及ヒ脊椎兩動脈ノ枝別ハ共ニ血液
 ヲ腦ニ輸送スル者ニシテ、屢錯綜交互スルヲ以
 テ腦面上ニ於テ先ツ脈絡網ヲ織成ス而シテ此
 網ハ過鏡ノ靜脈ヲ混合シ且ツ細精ナル纖維織
 ノ綜束ニ由テ強鞏ト為リ遂ニ膜ヲ形成ス
 其ノ延長部ハ皆十腦ノ裂面ニ竄入シ其脈ハ腦
 ノ毛細管血ヲ輸送出入セシム故ニ此膜ヲ剝離
 スレハ毛細管ノ腦ヨリ中斷放下スルヲ以テ膜
 ノ内面、纖毛下垂様ノ景況ヲ呈ス

甲 空口ノ下ホシチ云

乙 プレキニコノイテウス

此膜ノ延長中ニ於テ、一異ナル者ヲ 甲中蓋 イ ポ ト
ス、下、左ト稱ス
 大小腦ノ中間ヨリ、胼胝躰ノ底ト四疊躰ノ上ニ
 沈没シ第三室ニ達シ、天井ノ形ヲニ穹隆シテ其
 下面ニ沿ヒ延長シ、中線ニ從ヒ、二個ノ室靜脈ヲ
 含有ス、此靜脈ハ互ニ平行シ、合シテ一短幹ト為
 リ、腦硬膜ノ直竇ニ開口スル者ナリ
 此中蓋、天井ノ側縁外ニ延長シテ側室脈絡叢
コヲ形成ス、此叢ハ兩個
ノノ著明ナル脈絡副ニシテ、結節富有ノ赤糸ニ類

似シ天井ノ前脚底下ノ孔ヨリ側室ノ床ニ沿ヒ、
其中角ノ底ニ下行ス其起端ハ狹隘ニシテ側室
ノ中角ニ近邇スルニ從ヒ次第ニ廣濶ト為リ而
后チ又々縮小シ終ル其構造ハ中蓋ノ一部ヨリ
成リテ過鏡ナル毛様延長ヲ有シ又々迂曲血管
ヲ含ム蓋シ毛様延長ハ高年ニ至レハ多少ニ肥
大シ球狀躰ト為リ其大サ針頭乃至豌豆ノ如キ
ニ至ル故ニ誤リ認メテ水胞寄生ト做ス^リ有^リ
中蓋ノ下面ニ^甲第三室脈絡叢^シコロイド、ブレキユ
^リクント有^リ此叢ハ兩個ノ狹隘ナル脈絡副ニシ

甲
コロイド、ブレキユ、
トトリキユ、デルネー

甲
コランジュ、ラパツキヲテ

テ側室脈絡叢ヨリ、室靜脈ノ通路ニ沿ヒ、后方ニ
延長スル者ナリ
第四室脈絡叢^ココロイト、ブレキユ、^スラヴ、^モ亦
々兩個ノ脈絡副ニシテ小腦ノ肺胃葉ヨリ、蟲狀
隆起ヲ橫行シ互ニ結合シテ隆起ノ側方ニ沿ヒ、
僅カニ延長ス
大縦裂間ノ縁ニ於テ疎造ナル球狀ノ顆粒有リ
テ屢腦軟膜ニ結合ス之ヲ^甲パツキニ^リ躰^{パツ}キ^キヲ^ニ
スト稱ス其數ハ一定セスト雖^モ尋常聚合シテ
數個ノ簇ヲ爲シ間、硬膜ニ穿孔シ大縦竇中ニ突

解剖學 卷之十一

出スル有リ蓋シ其穿孔スルヤ壓搾ニ由ルナラ
シ加之ナラス其近傍頭顱ノ骨壁モ亦々動モス
レハ此躰ニテ吸収セラルハ、ナ有リ往者此躰ヲ
誤リ認メテ腺ト做セリ然レモ初生兒ニ於テ缺
凶スルヲ以テ考フレハ其屢存在スルニ拘ハラ
ス、疾病的ノ產物ト做スベク生來ノ固有ニ非サ
ルヲ必セリ

脊髓軟膜

脊髓軟膜

スピアマールトコルヴゼハ腦軟膜ニ比ス

レハ、脈絡鮮久、纖維織多シ故ニ多ク細精ニシテ

甲
リ、カ、ン、ト、ム、テ、ン、キ、キ、モ
ト、ム

且ツ鞏強ナリ直キニ脊髓ヲ密覆シ、薄キ延長ヲ
生シテ前中后中兩裂間ニ竄入シ前面ニ於テ縱
纖維帶ヲ呈シ、兩側即チ脊髓神經ノ兩根中間ニ
於テ鋸齒狀鞏帶トリンガメユトヲ形成ス此鞏
帶ハ、突隆スル纖維躰ニシテ、其外縁深キ齒狀ヲ
爲ス、恰モ鋸ノ如シ、而テ其齒ノ尖點ハ、脊髓神
經ノ中間ニ於テ、硬膜ニ固着ス
此膜ハ、脊髓ノ下端ヨリ、中腔ナル糸狀ノ延長ト
爲リテ、脊椎管ノ末端ニ至リ、硬膜ニ固着ス、此延
長中腔ハ、脊髓灰白質ノ延長ヲ充實ス

解剖學 卷之十一

甲 エンテーマ

固有膜
テーパーマンハ精緻透明ナル清膜ニシテ、腦ノ諸室ト胎兒ノ脊髓中心管ヲ裹被ス、初生兒ニ於テハ、其内皮顫毛セルヨリ成リ、高年ニ至レハ、其顫毛消耗ス

乙 ジュラメニキス

硬膜
トユラマハ、腦及ヒ脊髓ノ外被ナリ、細精強靱ニシテ、縮張ス可ラス、其色ハ、帶褐赤ニテ、其質ハ、纖維織ノ錯綜シタル束ヨリ成レリ、亦々其部ニ從ヒ、腦硬膜ト、脊髓硬膜トニ區別ス

ア イザンハロー

大脊腦硬膜
固有膜ニ其内層ハ、白クテ、外層ハ、

腦硬膜
ヲシテ、外層ハ、他部骨膜ニ匹、許多ノ微細ナル

血管組織纖維織トシテ、頭顱骨ノ内面ニ固着シ、殊

ニ其骨ノ縫合、及ヒ孔ノ周縁ニ、強ク固着ス、内層

ハ、脊髓ノ硬膜ニ配シ、其内面滑澤ニシテ、蜘蛛糸

膜ヲ周被ス、而テ此層ハ、小腦大腦ノ中間及ヒ其

兩半規形ノ域間ニ延長シテ、強靱ナル中隔ヲ形

成シ、腦塊ヲ擁護ス、大縦裂間ニ在リテ、兩大腦半

規形ヲ劃界ス、此中隔ハ、大脳鎌隔スルキブスルト

甲 フルキス、セレプリ

解明ナリ

甲、ハ、ハ、チ、ス、サ、ン、リ
甲、ニ、テ、マ

甲、ス、ル、キ、ス、セ、レ、ベ、リ

乙、ト、セ、レ、ベ、リ

稱ハ、篩骨ノ鶏冠ニ固着シ、天幕ヨリ起趾シ、上縦竇ニ沿テ、後方ニ進行シ、漸ク廣濶ト爲リ、天幕ニ結合ス、其形チ鎌ニ彷彿アリ、依テ其名ヲ命ス、
 溪ニ在リ、天小腦ハ兩半規形ヲ判別スル者ヲ小腦鎌隔セルキスト稱シ、天幕ヨリ下行シテ枕骨孔ニ達ス、合スルニ、
 小大腦ヲ界域スル者ヲ天幕リテト稱シ、其中線ニ沿テ、大腦鎌隔ニ連合シ、爰ヨリ兩側、即チ下外後方ニ傾斜シ、枕骨ノ線ノ側枝及ヒ顛顛骨岩狀部ノ上縁ニ固着シ、其内縁ハ巨大ナル卵圓形

ヲ爲シテ、大腦脚ノ橋ヨリ、大腦半規形ニ分岐スル者ヲ受容ス、
 硬膜ノ兩層ハ、處々ニ於テ互ニ離隔シ、管狀ヲ形成ス之ヲ硬膜竇サイノシト稱シ、其内面ハ、尋常血管ノ内皮ニテ被包シ、靜脈ノ作用ヲ成就シ、腦ノ毛細管ヨリ、血液ヲ歸流ヒシムル軟膜ノ靜脈ハ、皆チ此竇ニ開口シ終ル

中ニ就テ、上縦竇、直竇、兩側竇ハ、大腦鎌隔及ヒ天幕ノ基礎ニ沿テ、稜角間隙ヲ領スルヲ以テ、其形チ三角ナリ、自餘ノ竇ハ、細小ニシテ、一般ニ圓柱

形ヲ爲シ、頭顱ノ基礎ヲ占領ス、凡テ此實ハ、詳カニ静脈篇ニ論セリ、
此硬膜ハ頭顱骨基礎ノ孔ヲ出ツル血管及ヒ神經ノ纖維莢膜ニ連合ス

脊髓硬膜

脊髄硬膜、シユエ、
シユエ、
シユエ、シユエ、
ノミニ配對スル者ナリ、上方ハ枕骨孔ヲ通シテ、
腦硬膜ノ内層ニ連合シ、其周縁ニ固着シ、下方ハ、
脊椎管ノ末端ニ延長シ、脊髓及ヒ其神經ノ、
疎造ナル莢膜ヲ形成ス、而テ枕骨孔ニ於ケル外、
脊椎

シユエ、
シユエ、
シユエ、

管ノ骨膜ニ固着セシテ、兩膜ノ中間、内脊髄靜脈叢、結締織及ヒ脂肪織ヲ充實ス、
此膜椎間孔ニ對シテ、脊髓神經ノ根ニテ穿孔セラルルヤ、其莢膜ト爲リテ延長シ、且ツ固ク椎間孔ノ周縁ニ附着ス

蜘蛛糸膜

蜘蛛糸膜、シユエ、
シユエ、
シユエ、シユエ、
細密ナル清膜ナリ、軟硬兩膜ノ中間ニ在リテ、腦ヲ被覆シ、而後、硬膜ノ内面ニ翻轉シ、其中間空隙ヲ留ム、而テ翻轉部ハ、硬膜ノ内面ニ密着シ、被

甲、
シユエ、
シユエ、
シユエ、

覆部ハ、大脳鎌隔、小脳鎌隔、及ヒ天幕ヲ含有スル
 裂間ノ他、脳及ヒ脊髄ノ裂間ニ沈没セシテ、軟
 膜ノ外面ニ結合ス
 此膜ノ腦軟膜ニ結合スルマ、散布スル纖維織ノ
 束ト血管トニ由ル中間空隙ヲ殘ス之ヲ蜘蛛
 糸膜下腔イソブアパークスト稱ス此腔ハ部位ニ從
 ヒ、其大小同一ナラス、腦底ノ中央、上縦裂間ノ底
 及ヒ脊髄ニ於テ最モ大ナリ
 蜘蛛糸膜下腔ト、蜘蛛糸膜ノ空隙ヲ充實スル清
 液ヲ腦脊髄液ナレブレブカイト稱ス、其量數オ

シテ算スベシ

此膜モ、亦タ管狀ヲ爲シテ、軟膜ヨリ硬膜ヲ出ツ
 ル腦脊髄神經ノ根ヲ緩ク被包ス

解音訓蒙

卷之十六

三十一

解剖訓蒙卷之十六終

